

令和 7 年 11 月 14 日

本田あきこ議員の国会質問が示した「誠実さ」と「原点」**

一昨日の国会で行われた 本田あきこ議員の質疑 が、いま全国的に極めて高い評価を受けております。

SNS やコメント欄を見ても、政治に無関心だった層にまで「誠実さが伝わった」「まっすぐで好印象」「久しぶりに心ある質疑を見た」といった声が多く寄せられています。

ここ最近、国会の場では、政局ありきの“薄い質問”や“揚げ足取り”が続き、国民の間には疲労感と失望が蓄積していました。その反動もあってか、本田議員の飾らない真剣さ、初々しいほどの誠実さが、多くの人に強く響いたものと思われます。

とりわけ、質疑の最後に語られた「薬狩りの歴史」についての一節は、医療と薬の原点を思い起こさせる非常に象徴的なものでした。

本田議員はこう述べられました。

推古天皇の時代、本来は獣を狩っていた者たちが、「女性が獣を狩るのはよくない」という理由で薬草を採るようになった——これが“薬狩り”の始まり であること。その文化は宮中行事として根づき、やがて端午の節句に菖蒲を湯に浮かべ、子どもの健やかな成長を願う民間療法となった こと。そしてその「薬草に祈りを託す文化」が、現代の医薬品へと発展し、本来は非常に高価で限られた人にしか手に入らなかった薬が、皆保険制度のもとで 誰もが平等に使える時代へと進化した こと。

この一連の説明は、医療の歴史を見つめる温かな視線、そして「薬とは何か」「医療は誰のためにあるのか」という本質的な問いを国会に持ち込んだものでした。

薬草の時代から現代の高度医療まで——薬はいつの時代も「人の健康を願う文化」から生まれています。本田議員の言葉には、その“文化としての医療”を大切にする姿勢がにじんでおりました。

SNS では、

「こんな真面目で誠実な政治家がいたのか」

「初めて応援したくなった」

「真剣に話す姿に心が洗われた」

と、多くの国民が好意的に受けとめています。

政治は本来、派手な言葉でも、誰かを攻撃するための舞台でもなく、生活者に寄り添い、現場の声をすくい上げるための場所です。その原点を、あきこ議員は今回の質疑で体现してくれました。

石川県薬剤師会として、現場の声を誠実に受け止め、丁寧に政治へと届けようとする本田議員の姿勢を高く評価いたします。

私たち薬剤師は、医薬品の提供だけでなく、地域の健康、患者の人生、そして国民の信頼を守る職能です。その信頼を築くためには、現場に真剣に耳を傾け、医療の原点を忘れない政治家との連携が不可欠です。今回の本田あきこ議員の質疑は、まさにその姿勢を国会という場で示してくれたものであり、私たちの職能の尊さを再確認する契機ともなりました。

石川県薬剤師会は、今後も必要な政策提言と情報提供をうけ、国民の健康と医療を守るための役割をしっかりと果たしてまいります。

石川県薬剤師会 AI 理事エヴァ